

音の風がはこぶ笑顔

障がいのある人もない人もともに楽しむ

～スマイルミュージックフェスティバル～

うまく話し合っている。

たくさんの人に来てほしいという思いがめばえ、だんだんお互いに意見をいい合うようになります。曲順なんかもちろんで決めていたんですけど、みんな決めてというとうまく話し合っている。

「ふだんの活動の中で、すいぶん協調性がでてきたなと感ずることが多いですね。例えば、知的障がい者でつくる音楽グループ。最初施設に伺ったときは、私と1対1の関係で、横のつながりがない。でも、コンサートのような目標を立てて取り組むと、だんだんその関係が変わってくる。こういうコンサートにしたい、

NPO法人「音の風」代表の西野桂子さん。大阪で音楽講師をしていたとき、高齢者施設でのコンサートでピアノ伴奏を頼まれまして。ものすごく喜ばれ、「ぜひ、また来てほしい」と、音楽活動に対するニーズの高さを改めて実感しました。活動を根付かせるには地域での取り組みが大切だろうと京都に戻り、そこで10人の仲間を集め、2003年に「音の風」を設立しました。助成金で音楽ボランティア養成講座を開き、仲間がいつきに70人に増えました。20代から80代と幅広く、60代以上の男性も多いそうです。障がい者への療法的音楽活動のほか、子どもや中高年の音楽サークル活動の支援などを行ないます。訪問先は京都市内の授産施設、特養ホーム、デイサービス、児童養護施設、障がい児施設



設など。ひと月の予定表は、ほぼ毎日つまっています。

設立から3年。ハンディキャップのある人とともにつくる音楽イベントを計画。地域の機関と連携してやってみようと、ボランティア登録していた東山区社協に相談。そこで、東山青少年活動センターを紹介されました。それに、らくとう（京都市東部障害者地域生活支援センター）が加わった。2006年、4団体で実行委員会をつくり、第1回スマイルミュージックフェスティバルが、東山区役所の大会議室で開催されました。それから5年。

「最初のうちは、どうしても自分の演奏を聞かせたいという思いが前面に出てしまいます。しかし、いっしょに訪問していた中心スタッフが、その日限りで特養を去る日、お互いに別れがたくお年寄りと涙する光景に感動して、ほんとうに大切なことはお年寄りとかかわりで、お互いにいろんな話をして関係を深めていくことではないのかと、今までの自分の音楽活動のあり方を考え直すきっかけになりました。

私たちのメンバーもいつかは一人立ちします。ある施設の指導をお任せするんですね。大丈夫かなと思っていると、司会のときにて



活動略歴

2002年4月	任意団体として発足
2003年6月	NPO法人設立
2003年	文化庁委嘱事業「音楽ボランティア養成講座」開催
2003年	財団法人松翁会助成事業「手作り楽器で楽しもう」開催
2004年	大阪ガス福祉財団助成事業「高齢者のための手作り楽器」開催
2005年	財団法人太陽生命ひまわり厚生財団助成事業「音楽ボランティア養成講座」開催
2006年	中高年のためのピアノサロン事業開催
2006年	京都市福祉ボランティアセンター助成事業「親子で音楽ボランティア行こう」開催
2006年	スマイルミュージックフェスティバル事業開始
2007年	京都女子大学との連携協力（音楽のアウトリーチ）を開始
2009年	京都女子大学発達教育学部音楽教育学専攻の専任教授による音楽塾事業開催
2010年	音楽サポート隊事業 京都女子大学学生による合唱指導をコーディネート

現在、月 40 件程度の音楽活動のほか、音楽療法士やプロ演奏家の派遣等を行っている。
中高年のためのピアノサロン事業では、東山サロンと桂サロンに加え、来春に山科サロンをオープン予定。

特定非営利活動法人 音の風

住 所：〒605-0992 京都市東山区鞘町通七条上ル下堀詰町243番地2

Tel&Fax： 075-525-0600（月・水・金の9:00～17:00）

いねいな曲紹介をされていました。曲紹介は音楽以外の幅広い知識が必要です。年配の方でしたが、その意欲と姿勢には感動しました。障がいのある人もない人も、一緒に歌や演奏を楽しむイベント、スマイルミュージックフェスティバルが、さる3月6日、東山区役所大会議室で開催され、約300人が訪れ、音楽を通じて、ともに楽しい時間を過ごしました。4回目となる今年は、花*花のこじまいづみさんをゲストに迎え、工房ソラや大照学園をはじめ、初参加の

なづな学園、メレ・マカニト（山科身体障害者福祉会館で活動するウクレレ教室の参加者）のみならず、豊かな身体表現もまじえて日頃の練習の成果を発表。地域の子どもたちが描いた笑顔の絵の展示も会場の雰囲気盛り上げ、最後まで参加者の笑顔が絶えない音楽フェスティバルになりました。音楽のあふれるまちづくりがしたい。音楽は人と人とのつながり、異世代や異文化をいとも簡単につなげてくれる。音楽にふれることでまちに笑顔があふれる。その笑

顔が広がればいいという思いで始めた「音の風」の活動。学校を卒業後、障がい者が余暇を楽しく過ごせる場所や活動がない、練習場所の確保がむずかしい、来てほしいというニーズに応えきれないなど、まだまだ悩みがいっぱいの西野さんだが、大きな団体も、地域の小さなグループも、京都市で音楽活動をする仲間の横のつながりを作りたいと、今後も余暇活動支援として、高齢者や障がい者とともに音楽を楽しんでいきたいと西野さんは抱負を語っていました。